

令和元年度小豆島オリーブ(ビギナー検定・小豆島会場) 正解表

設問	正解	テキスト記載P	備 考	設問	正解	テキスト記載P	備 考	設問	正解	テキスト記載P	備 考
問1	3	P68	オリーブ栽培の起源には諸説あるが、約6,000年前に小アジア地方で始まったというのが現在の定説になっている	問18	1	P38	平成17(2005)年に(株)ヤマヒサが国産オイルとして国内初入賞した	問35	2	P70～73	①イタリア ③イタリア ④ギリシャ
問2	1			問19	1	P40	モクセイ科オリーブ属に属する常緑樹である	問36	4	P73	カラマタの用途はオイル用もしくはテーブルオリーブ用で、色が変わりにくいため主にギリシャ式のブラックオリーブ用に栽培される品種である
問3	1			問20	4		樹齢は極めて長く、地中海沿岸では数千年を超える老樹も現存し、果実を实らせる	問37	2	P47,48	スミチオン乳剤の50倍液を使用する場合は、樹幹部に4～8月にかけ、葉・果実にかからないように使用回数3回以内で散布する
問4	4	P8	日本に初めてオリーブオイルが持ち込まれたのは、約400年前の安土・桃山時代であり、当時キリスト教伝道のため来日したフランシスコ派のポルトガル人神父が携えてきたと言われている	問21	1	P41	表面は厚い透明のクチクラに覆われて光沢のある濃緑色、裏面は密生した毛茸で銀白色になっている	問38	3		
問5	1			問22	3		5月下旬～6月上旬にかけて開花する 1樹の開花期間は6～7日で、盛花期間は2～3日である。蜜はなく、多量の花粉を風で飛ばす風媒花であるが、虫媒花でもある	問39	3	P49	炭疽病予防策の基本は、圃地内の日当たり・風通しを良好にすることであり、密植を避け適度な剪定を行うとともに、水はけの悪い圃地では排水路を確保することが大切である
問6	2	P10	明治7(1874)年、佐野常民がイタリアからオリーブ苗木を持ち帰り、東京と和歌山に植樹	問23	2	P42	自家不和合性の性質を持つため収穫量を上げるために受粉樹として異なる品種をある程度混植しているケースが多い	問40	3	P54	1970年代中頃まで主な採油法であった
問7	4	P11	農商務省直轄であった神戸オリーブ園において、福羽逸人による管理が好成績を収め、明治15(1882)年に日本で初めてオリーブオイルの採取及びテーブルオリーブ加工が行われた	問24	2			問41	1	P59,60	①マットなどの資材を使わないので、オイルが汚染される危険性が低い
問8	4	P12	明治40(1907)年に農商務省が、三重・香川・鹿児島を指定し、翌年それぞれ1.2haの規模で試験栽培を開始	問25	1	P73～76	国内オリーブ栽培のテーブルオリーブ用、オイル用兼用の最主要品種となっている	問42	1	P87	品質の高い順に、エキストラ・バージン・オリーブオイル、バージン・オリーブオイル(狭義)、オーティナリー・バージン・オリーブオイル、ランパンテ・バージン・オリーブオイルとなる
問9	1	P12,13	明治32(1899)年、香川県農事試験場の創設とともに福家梅太郎が場長に就任	問26	4		観賞用樹として最も苗木生産量が多いのが特徴	問43	2		エキストラ・バージン・オリーブオイルとは、遊離酸度がオレイン酸換算で100g中0.80g以下で、官能評価では欠陥の中央値が0.0で"フルーティー"の中央値が0.0を超えるもの
問10	3	P73～76	日本へは明治40(1907)年、農商務省指定試験開始時にアメリカ合衆国から導入された。実際にアメリカ合衆国から輸入されたのは3品種あったが、1品種は不明	問27	2		含油率は25%程度と非常に高い。一本でも実をつけやすく、耐寒性、耐病性にも優れている	問44	3	P86,89	平成26(2014)年にIOC基準に準じた県独自のオリーブオイルの品質評価基準を策定、「かがわオリーブオイル品質評価・適合表示制度」を創設し、品質の高さと香川県産(または小豆島産)であることの表示を行っている
問11	3	P15,16	尾崎元扶は、香川県農業試験場小豆分場の初代分場長であり、オリーブ樹の自家不和合性の解明や苗木の育成法の確立など、オリーブ栽培進展の障害となる多くの問題点を解決し、日本におけるオリーブ栽培の基盤を構築した	問28	3	世界中で多く栽培される主要品種。自家不和合性が強いなど弱点があるが栽培は容易	問45	2	P90,91	①、③、④は多価不飽和脂肪酸である	
問12	2	P14	これにより、日本における果実加工はようやく一歩を踏み出した	問29	3	P44,45	花芽が付く条件には気温などの環境が大きく関係する	問46		3	バージン・オリーブオイルはビタミンEやベータカロテン、ポリフェノール類などの抗酸化物質を豊富に含んでいる
問13	4		①前田 正名 P10 ②三木 隼人 P16 ③林 洞海 P9	問30	3	P44	オリーブ樹は乾燥を好む植物とされているが、適度な降水量が必要となる	問47	2	P91～93	②カルシウムの吸収を助け、骨のミネラル化(骨組織へのカルシウム吸収・沈着)を促進することで骨粗しょう症の予防にもなる
問14	1	P17,18,26	オリーブが農産物輸入自由化の第1弾の品目に組み込まれた	問31	3	P44,45	比較的低温には強く、短時間の場合-10℃で寒害が発生する程度である	問48	1	P26,27	②香川県の県木に選ばれる ③香川県オリーブ公園が開園 ④小豆島オリーブ協会発足
問15	4	P27,33,34	平成29(2017)年に425tとなり、昭和39(1964)年のそれまでの最高収穫量である405tを更新した	問32	4	P45	土壌に対する適応性は高いが、排水しにくい重粘土、地下水位の高い低湿地では生育が極端に悪くなる	問49	2	P100～102	香川県高松市生まれ。梨本宮にオリーブの絵を献上。これが、日本で最初に描かれたオリーブの絵となった
問16	3	P25	平成29(2017)年末の輸入量は5.7tで、食の安全への意識の向上から、国産品への志向も需要が増えつつある	問33	3	P40,45	オリーブ樹は根がもろく、風害を受けやすい。またオリーブ樹は常緑樹である	問50	1	P26	昭和47(1972)年に「小豆島オリーブを守る会」が結成され、3月15日をオリーブの日と定める
問17	2	P23,24,27	②平成22(2010)年度に歴史あるオリーブ産地を守り育て、「小豆島」のブランド力を高めることを目標に立ち上げた	問34	2	P73	53品種が保存されており、その内4品種が一般に栽培されている				